

令和3年9月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	6	議席 番号	4	氏名	辻 村 岳 瑠 議員	1 / 2
発 言 項 目		要 旨				答 弁 者
1	令和3年社会福祉法改正に伴う、地域福祉計画策定に関して、農福連携計画の提案	<p>既存の国庫補助事業を再編成し、地域共生社会の実現を目指す国は、社会福祉法の改正の中で、地域福祉計画を福祉の各個別法の上位計画に位置付けた。このことは、地域福祉計画がこれまでの計画とは全くの別物になる、または大きな変更がされると考えられる。現在市は、次期の「富士宮市地域福祉推進計画（第4期富士宮市地域福祉計画及び第4期富士宮市社会福祉協議会地域福祉活動計画）」を策定中だが、従前から求められてきた、住民主体の地域福祉計画をコロナ禍にあってどのように計画策定していくのか。また、今後の地域福祉を総合的に推進していく上で大きな転換期になる計画策定だと考えるが、以下同う。</p> <p>(1) 重層的支援体制整備事業を、地域福祉推進計画にどのように盛り込み、計画していくのか伺う。</p> <p>(2) 県の地域福祉支援計画は市町の地域福祉計画を支援していく計画である。県の進める農福連携と、これまでの地域福祉推進計画は、どのような関連をしていたのか伺う。</p> <p>(3) 社会福祉法の改正に伴い国から示された市町村地域福祉計画の策定ガイドラインによると、地域福祉計画に盛り込むべき事項のひとつに「様々な課題を抱える者の就労や活躍の場の確保等を目的とした、福祉以外の様々な分野（まちおこし、商工、農林水産、土木、防犯・防災、社会教育、環境、交通、都市計画等）との連携に関する事項」が挙げられている。計画の主体である市民には、「自分が受け継いだ美しい田園を、次の世代へと受け継いでいき、持続可能な地域の輪の中に身を置きたい。」という想いが存在している。また、地域の活力を取り戻すためには「自分が受け継いだものを、次の世代に受け渡す。」という伝統に目を向ける必要がある。田園という伝統は、地域の活力であり、今後、福祉以外の分野との連携を地域福祉計画に盛り込むにあたり、農業との連携は、共生社会を推進していく上で戦略的な計画になると考え提案するが、市の見解を伺う。</p>				市 長 副 市 長 関 係 部 長
2	熱海市伊豆山地区での災害ボランティアの経験から市の災害対策に関して	<p>土砂災害から1か月後、災害ボランティアに参加した。その体験から、同様の災害を防ぐにあたり、当市の防災計画に関して以下同う。</p> <p>(1) 「同報無線は聞こえない。」という伊豆山地区住民の声があった。そのことから、市の携帯型防災ラジオはとても有効な防災施策と考える。しかし、携帯型防災ラジオさえも無効となる可能性が考えられるのであれば、その理由を伺う。</p> <p>(2) 災害が発生した場合、全国から多くのボランティアが駆け付けてくれるものと思われるが、当時の熱海市の災害ボランティア本部の混乱は、すさまじいものだったという話を聞いた。このことから、市のボランティアの受付、活動場所のあっせん、配置調整等の体制は、どのようになっているのか伺う。また、被災したペット対応に大変苦慮をしたと聞いたが、市の現状を伺う。</p>				市 長 副 市 長 関 係 部 長

発言 順序	6	議席 番号	4	氏名	辻村 岳瑠 議員	2 / 2
発言項目		要 旨				答弁者
		(3) 災害発生後に郷土から離れ、家族そのものが離れ離れになる離散状態は、被災者にとって二次災害の状況と考える。市は、この離散防止対策をどのように考え、対策しているのか伺う。				